

しかはま自然観察会

代表責任者 古高 利男

のらえもん

☎ 270-1132

我孫子市 湖北台 2-14-7

☎ 09072759890

『人も 自然も みんなともだち !』 No. 2 2010年6月1日発行

第2回活動 稲作文化体験その①「田植え体験」

- 日時：5月15日（土）8：30～16：45
- 場所：茨城県大生郷 宅間様の田んぼ（地主は、林様です）
および茨城県立自然博物館見学
- 参加者：

	バス参加者	車参加者	合計
*スタッフ	4		* 4
* 大人	20	5	* 25
* 小人	22	4	* 26
* 幼児	9	2	* 11
* 合計	55	11	* 66

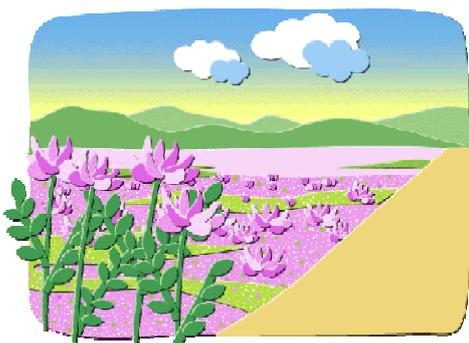
- 田植えした広さ：約500平方メートル（240kgのお米がとれるかな？）
- 苗の種類：コシヒカリ
- 田んぼの温度：○気温 18℃（12時頃）
○田んぼの水 31℃
○田んぼの土の中 23℃（5cmぐらいの深さの所）
○コンクリート 31℃

●田んぼにいた生き物

カエル（アマガエル、トウキョウダルマガエル、ウシガエル）、ヒル、
ミジンコ、メダカ、クサガメ3匹、クロアゲハ、？な魚（Sくんが発見）
ツバメ、カラス、アオサギ、スズメ、セッカ、ハクセキレイ、ムクドリ

● 田植えの様子は・・・

足立区からバスで1時間で着きました。大生郷菅原神社で、田植えのことと一人一人の学びが実るようにお参りをしました。トイレを済ませ、いよいよ田んぼに出発です。ツバメに歓迎されメダカを見つけながら田んぼに着きました。宅間様とそのお母さんがニコニコと迎えてくれました。



田植えの前に、宅間様が田んぼの働きについて説明してくれました。

① 米、つまり食料の生産

② 空気をきれいにする。

稲は光合成をおこない、酸素を出している。

③ 夏の暑さをやわらげる。

水蒸気が、気温の上がりすぎを防いでくれる。

④美しい風景をつくる。水と緑の風景。

⑤生き物のすみかとなる。

カエル、ドジョウ、メダカ、ミミズ、タニシ、ヤゴ、ヒル、プランクトン、イナゴ、トンボ、クモ、スズメ、サギ、カラス、浮き草、クワイ、

⑥水をきれいにする。

土の層が、濾過フィルターの役目をする。

⑦土砂くずれを防ぐ。水をためる。千枚田。

⑧ダムの役目。

雨水をため、ゆっくりと地下や川に流すために洪水をおこさない。

(日本全国の水田の水を合わせると東京ドーム4100杯分(51億立方メートル)で、全国のダムの貯水量を超えている。)

田んぼは、お米だけではなく、お米をつくりながらたくさんのお働きをしていることがわかりました。田んぼは、私たちを守ってくれているようですね。

いいお話をきいたので、田植えにも力が入りました。裸足になってどんどん田んぼに入っていました。「ぬるぬるだー」「あったかーい」「気持ちいいー」そんなことを言いながら、苗を3~4本ぐらいつつ植えていきました。思うようにならず、途中から泥遊びに高じてしまう子もいました。どの子も、とってもいい顔をしていました。

約500平方メートル植え「のらえもんの田んぼ」の出来上がりです。その田んぼの畦で食べたお弁当のおいしかったこと！やがて、男の子が動き始め、「カメだー」「ヒルがいたー」「カエル、つかまえたー」と、青空に届きそうないい声が聞こえてきました。

そんな上を、「なに、やってるの？」といわんばかりに、アオサギがゆうゆうと飛んでいきました。

全員の目は、もう、秋の稲刈りです。どのように稲が育ってくれるのでしょうか。4カ月後の実りに、今から心がワクワクしてきますね。



お米の知識====工藤咲子さんが調べてくれました (JA全中の資料)

◆大茶わん1杯のご飯は、約3500粒の米で、約150グラム
(1粒は、0.02グラム)

◆1粒の種から穂は、20本で、1400粒
(1本の穂から70粒の米)

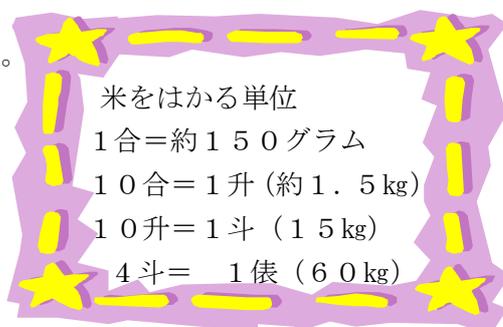
◆米つぶができた穂の様子から、「米」という字ができた。

◆田は、田んぼの形、十は畦を意味する。

◆米は、八十八と分解できる。つまり、お米をつくるのには八十八もの手間がかかるという意味。

◆「ご飯」とは、「ありがたいもの」、と言う意味。

◆「しゃり(舍利)」とは、おすしやさんはご飯のことを「しゃり」という。お米を、えらいお坊さんの骨に見立てていた。つまり、「感謝の気持ち」が込められている。



米をはかる単位

1合=約150グラム

10合=1升(約1.5kg)

10升=1斗(15kg)

4斗=1俵(60kg)

- ◆ 米の品種・・・(おもしろい名前のもの) 森のくまさん、げんきぼし、ほほほの穂
ゴロピカリ、夢しずく、まなむすめ、ひとめぼれ、

お米のことをいろいろわかってくると、夕飯の食事に一味ついたようになりますね。その上、お米に感謝の意味が込められていると聞いて、粗末にできない気持ちになりますね。

Kさんが調べてくれたおかげで、お米について初めて知るものもたくさんありました。

・・・親と子のいきいき感想・・・

○なえをうえた。あとのあそびがおもしろかった。 鹿浜3年 男子

○ぼくがびっくりしたのは、うごくきょうりゅうでした。はくりよくもあって、ティライノサウルスも、ましなティライノはかっこよかったです。 鹿浜4年 男子

*今日は、初めての田植えにドキドキしながら、ドロの中に足を入れました。意外にも上手に出来たと思います。今度、一人でモクモクと(田植えを)やってみたいです。収穫を楽しみにしています。

意外にも 田植えのセンス 光ってる 母

○なえうえが いつのまにかに カエルとり 鹿浜4年 女子

*初めての体験で、どろんこになって苗を植えて、満足したようです。つきそいの者も、のどかなたんぼの中の昼食は、大変いやされました。 祖母

○はじめて田うえをして、田うえはむずかしいと思った。 鹿浜5年 男子

○たのしかったです。おもしろかったです。 鹿浜3年 女子

*初めての田植え・たんぼ・・・ということで、行く前からとても楽しみにしていました。そして、今日、たんぼの水がとてもあたたかいのに驚きました。今から、秋の収穫がとても楽しみです。

草笛の 軽い音色で 疲れ飛ぶ 母

○楽しかった。 鹿浜5年 男子

*親子共に、初めての田植え体験、楽しかったです。まっすぐ植えられず、くねくねしていたけど、大きく育ててくれることを期待しています。 母

○たんぼの中は、ぬるぬるでした。

いねをうえ たんぼの中は いねだらけ 鹿浜2年 男子

* 稲刈りの手伝いは、子どもの頃ありましたが、田植えは初めての経験でした。子どもより夢中になり、楽しく過ごせました。

稲の苗 無心で植えた ジグザクに 父

○ いねをうえるのは、大へんかったです。だけど、おもしろかったです。

また、やりたいです。

またきたい たんぼのなかに いねうえる 北鹿4年 男子

* おべんとう いつもの量で あらたりない

田植え後は なおありがたし 米のつぶ

たんぼ背に まんぞくおかず しおおにぎり 母

○ たんぼはどろどろで、いねがみずにとばされて、とりにいくのがたいへんだったけど、いねをうめて、こんどたべたい。

どろどろに まけずにうえた たうえかな 北鹿2年 女子

○はじめてで、ちょっとわかんなかったけど、たのしくて、りかのべんきょうのさんこうになった。カエルがいっぱいいて、もったらふくらんで、水にいれたらもとにもどった。



カエルさん とぶのがだいすき ぴよん

北鹿3年 女子

○どろまみれになったけど、たのしかったです。カエルをつかまえられてよかったです。

田んぼでね 田うえをしたよ みんなでね 北鹿4年 女子

○すごくてのしかった。いっしょにあそんでくれて、ありがとう。

たうえして おもしろかったよ かえるとり 保育園5才 男子

*田んぼに入り手で植えていくことで、農家の人のくろうもわかり、食べ物もそまつにしないし、自然の大切さもわかり、ありがたい経験でした。

できるとね こうべをたれる いなほかな

たんぼみて いねかりをまつ ゆめいっぱい

田植えして 自然いっぱい ゆたかなところ 母

○田んぼはふかくてきもちよかったです。と中でどろに足がはまってたおれそうになりました。田うえは、さいしょはむずかしかったけど、なれてきて、どんどんうえられるようになりました。楽しかったです。また、こんどののらえもんもたのしみです。

どろだらけ むずかしかったよ いねうえは 北鹿3年 男子

*たのしかった！どろはあったかかった～！ 3才 女子

*田植えというより、泥の感触を楽しむという感覚でした。とても気持ち良いものですね。子どもの頃、泥だらけになりながらザリガニを捕っていたことを思い出しました。息子などは、このような機会がなければ出来ない経験でしょう。もっと泥だらけになって欲しかったと思います。この先、お米になるまで楽しみです。

田植え中 まだ見ぬ稲穂 夢見てる 父

○田んぼはね いろんな命の 元なんだ 鹿西4年 女子

*泥ならし 強く育てと 苗植える 父

○博物館いろんな恐竜ありました 鹿西4年 女子

*横になった苗、流れている苗、まるっきり植えられていない空間、あとは土と太陽が育ててくれ、秋には稲穂がたわわに実るでしょう。

苗おどる 親子で植える 初田んぼ 父

*ぬるぬる、泥の中での田植えはとても気持ちいいです。

皐月の風に 揺れる青い苗 気持ちいいわ 母

○田んぼのおくの方に、カメがいたのがすごかったです。田んぼにカエルもいました。なぞの赤いぶつたいがいました。そのしょうたいは、ザリガニかエビだとおもいます。

鹿西3年 男子

*残念ながら田んぼには入らなかったのですが、子どもたちが嬉しそうに参加していたので、来て良かったです。 母

○一番おもしろかったのは、やっぱり田うえです。あと、カメやメダかなぞの魚やなぞの赤いザリガニがいました。

田うえはね どろどろだけど おもしろい 鹿西3年 男子

*初体験の田植えで、親子で楽しみにしていました。泥の感触がとても気持ちよかったです。秋にまた来て、どのように成長しているか見るのが楽しみです。 母

○はじめてのたうえ、おもしろかった、あつかった。

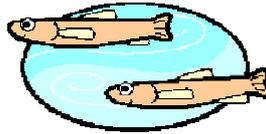
おべんとう あついなかでも おいしいな 鹿西3年 女子

*青空の下、自然を感じ、東京にはない空気を吸いながらの米づくり、楽しみです。

初夏の風 子供も育ち 稲育つ 父

○今日は、田んぼのコンクリートがいたかったです。(田んぼに) 入ったらぬるぬるしてしまいました。少しつめたいところもあったし、あつたかいところもありました。気持ちよかったです。また行きたいです。 上末吉3年 女子

○今日、田植えで、はいる時に、私はたぶん転ぶかもしれないと考えていました。入ったらぬるぬるしていて気持ちが悪くなりました。でも、だんだんと気持ちがよくなりました。さいしょはていねいに、まっすぐ、植えることはできたけれど、後のほうはぐちゃぐちゃになってしまいました。やっぱり田植えは、男の力がひつようだと思いました。さいごに転んでしまい、さいしょの予想が当たってしまいました。いたかったけど、体験できて楽しかったです。



体験を 田植えで転び 大丈夫?

鹿西四年 女子

○わたしはずっとさんかしているけど、きょうが一ばんたのしかった。でてよかった。田んぼに、はいれなかった。

いやされる おべんとうを たべられるよ 上沼田2年 女子

*田植え体験がとても貴重だとわかっていても、田んぼに足を入れることができず・・・、そんな私に育てられた娘も、やっぱり見学で・・・。複雑な気持ちでしたが、友だちが田植えをしている姿を見ることができたり、苗をさわったりできただけでもよかったと思います。

どろのなか てあしいれず みてるだけ 母

○たんぼでいねをうめたこと。はくぶつかんにいったこと。たんぼでどろだらけになったこと。はくぶつかんですごいものをみたこと。きれいないしをみつけたよ。たのしかったよ。 上沼田1年 女子

*親子共々、初めての田植え体験を楽しみました。田んぼは想像していたより深く、柔らかかったです。日常では泥だらけになる事がほとんどありませんので、実は親の方が(泥だらけになることを)楽しんでたのかもしれない。9月の稲刈りが楽しみです。

田植えして 稲刈りの日が 楽しみに 母

○おべんとうをたべたこと。はくぶつかんにいったこと。たうえのどろんこあそびがたのしかった。 上沼田1年 女子

*初めて田植えをしました。思ったよりも深くて、きれいに植えるのが難しかったです。子供よりも楽しめました。(おべんとうの) ごはんがとてもおいしかったです。

母

○田んぼをうめるのがたのしかった。田んぼに、かめ・かえる・あめんぼがいた。はくぶ

つかんでおもちゃがかえたのがよかった。たのしかった。

いねにおおきくなれねがいこめて

上沼田1年 男子

- * 初めての参加で、少し不安を感じながらの参加でした。普段しない体験をさせて頂、のらえもんに入り、よかったと思っています。田植え、(子どもは)楽しかったようです。「次回は、いつ?」と、早速、バスの中で聞かれました。

かめかえるあめんぼ草のにおい空気 ありがとう

母

- かめがいた。かえるもいた。いき物がいっぱいいるよ。 上沼田3年 男子

* 田んぼには色々な生き物がいて、一日いてもあきなくて、楽しかったです。また、生き物を見つけに行きたいです。

母

- 田んぼに入って(田植えを) やってる時、足がうまってやりにくかったです。虫もたくさんいて、楽しかったです。

上沼田3年 女子

- * 50年ぶりの田植え、楽しい一日でした。

老いの手で 孫と一緒に 田植えする

田に入り むかしのことを 思い出す

祖父

- かえるがいっぱいいて、たのしかったです。たんぼにはいったのしかったです。

上沼田3年 男子

- たんぼにはいったのしかったし、うえてたのしかったよ。またきたいよ。

女子

- 今日がほとんど初めての田植え体験でした。泥遊びなども、十何年もしていないので、足の裏で感じる田んぼの感触は懐かしくも新鮮でした。今日一日だけの体験で、言えば「楽しい」と言えるものでしたが、これを何日も続け、今後も複雑な作業をずっとしていくことを考えると、本当に大変なことだと思いました。

田植えして 改めて知る ありがたさ

上沼田小教諭 小川 匠

- 東北の田舎で生まれ育ちましたが、田んぼで遊んだこともなく、田植えをしたこともありませんでした。今回の体験は、私にとっても初めてのことであり、引率の立場も忘れて熱中してしまいました。自然の乏しい東京でこのような会があることは、子どもたちにとって大きな意味あると思います。もし自分に子どもがいたら、参加させたいです。

上沼田小教諭 南館 宏司

- 泥遊び 合間に植える 田植え日和
黒い土 みるみる増える 稲の苗

のらえもん

